

あとがき

〈編集顧問〉

太田 保世
諏訪 邦夫
堀江 孝至
村山 正博

〈編集委員〉

相澤 久道
和泉 徹
小川 聡
永井 良三
平山 篤志
三嶋 理晃

〈編集協力委員〉

赤石 誠
赤柴 恒人
北風 政史
近藤 哲理
中沢 潔

(五十音順)

「呼吸不全を来す難治性呼吸器疾患克服への取り組み」が今月号のテーマである。疾患が4つと治療が2つの計6つの論文はいずれも力作揃いであり、この分野の最近の進歩がよく分かる。この論文の並びを見ながら気がついたことがある。難治性呼吸器疾患はいずれも稀少疾患であり、それぞれの病態異常は異なるが、治療は普遍的なものである。当たり前と言えば当たり前であるが、医学は常にこの様に進歩発展してきたのではないか。個別の疾患を掘り下げて研究しながら、深く追求すればするほどそこから他へも応用できる臨床的な普遍性が生まれてくる。私が今臨床教室に籍を置き、そこで大学院生、教室員に望む研究はそのようなものである。

現在の臨床研修制度が始まってから基礎医学離れが進んでいると聞く。大学院に進む人間が激減している。教室員でも研究に興味を示すものは少なく、早く臨床医として一人前になり、専門医を取りたいという人が多い。専門医はもちろん必要であり大切である。しかし、一方で学位の価値や魅力が低下していると聞く。確かに、臨床医としては学位よりも専門医の資格のほうが直接的には関係するかもしれない。多くの医師は研究者になるのではなく、臨床医になるのだし、研究に時間を割かれるよりも効率よく臨床の経験を積んだほうがよいかもしれない。しかし、果たしてそれでよいのだろうかという疑問が湧いてくる。優秀な臨床医とは何か、医師にとって研究とは何かという基本的な問題に立ち返る必要がある。多くを語る余裕はないが、結局疑問を持ち、それを解決する能力を養うことだと思う。もちろん臨床一筋でもその力は養える。しかし、研究を通じて考えることによりそのような能力を養うことが出来る。直接、目の前の臨床には役に立たないように見えても、研究を通じて学んだことはその医師の臨床力に生きてくる。Comroeは著書の中で「私は研究をしたことのない医師には診てもらいたくない」と言っている。含蓄の深い言葉である。

(相澤久道)

呼吸と循環(第59巻 第2号)

2011年2月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

2011 年年間購読料
 冊子のみ 31,800 円 冊子+電子版 41,400 円
 電子版/個人 31,800 円 電子版/共有 36,570 円
 (税込み, 配送料弊社負担)

E-mail: kotojun@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kotojun>

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

(担当: 樋川・今田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (株)医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2011, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCOPY 〈樹出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(株)樹出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。